

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2374500516
法人名	有限会社サロット
事業所名	グループホーム さくら・ひまわり
訪問調査日	平成21年4月8日
評価確定日	平成21年4月27日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2374500516
法人名	有限会社サロット
事業所名	グループホーム さくら・ひまわり
所在地	尾張旭市柏井町公園通573-1 (電話) 0561-55-7977

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年4月8日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成21年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月16日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	2棟

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成21年3月15日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低 73歳	最高 94歳		
協力医療機関名	打田内科クリニック・尾張旭クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは森林公園に面し、居間、居室、浴室からも緑が眺められ、四季の自然を感じながら心豊かに過ごせる環境の中にある。ホーム前には愛知用水が流れ、全面にフェンスが張られていることから安全に水と緑の中を散歩できる。木の香漂う木造平屋建ては、ウッドデッキを中心にさくら・ひまわりのユニットが両側にある。庭には種々の樹木や花が植えられており、畑もある。ウッドデッキは広くお茶や食事をしたり、運動会やハーモニカ演奏会も行なわれており、庭を眺めながら外気にふれることができ、散歩や憩いの場となっている。入居者は食事の準備や食器拭きを当番制で手伝い、掃除やイス拭き等、できることを自発的に行なっており、積極的な支援がなされている。職員は素晴らしい自然環境の中で家庭と同じ雰囲気暮らし、自然に笑顔が見られる生活をめざして共に支えあいながら介護している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員で話し合い、「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」という理念をつくりあげ、実践に日々取り組んでいる。同業者との交流については、地域の同業者の勉強会やイベントなどに参加し交流を通じて向上したいと考えているがそこに至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的について管理者、職員共に理解し、忙しい日々の業務の中で項目も多く大変だったが、全員で自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 入居者家族、市高齢福祉課職員、地域保育園の家族、ホーム職員をメンバーとして3カ月に1回開催している。会議では入居者の日々の暮らし振りや行事などを報告している。メンバーからの意見はケアに活かすように努めている。地域保育園の家族との繋がりで園児との交流も生まれた。評価結果も会議で報告し、意見をもらい、改善していく予定である。今後、地域の方の参加も促していきたいと考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 重要事項説明書に苦情や相談窓口を明示し、契約時に説明している。家族の来訪時には、運営推進会議への参加依頼や、意見、要望を聞いて運営に反映させようと努めている。話を聞き意見を言いやすい環境をつくり、信頼関係を築いていくことが大切と考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、夏祭りや清掃等地域の行事に入居者と一緒に参加して交流を深めている。地域の保育園との交流やボランティアとの交流も活発で、運動会に参加したり、ハーモニカの演奏会も行なわれている。回覧版を一緒に持って行ったり、近所の人々が畑で作った野菜を届けてくれるなど、地域の人々も理解を深め受け入れてくれている。今後はホームの行事を近隣に配布し、立ち寄ってもらえるようにしたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」を理念とし、事務所に掲示している。前回の評価で地域密着型としての理念を盛り込んだ取組みが期待された後、今回職員で話し合っ て取組み作り上げた。入居者にとってホームは自宅であり、地域の中で家庭と同じ環境の中でその人らしく笑顔で楽しく生活してもらうことを目指し、実践に日々取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員には採用時に説明し、事務所と休憩室に掲示されており、確認、共有している。理念に基づき介護している。職員の笑顔での介護が、入居者の笑顔を引き出すと認識しているが馴れ合いになり、認識が薄れた時には管理者が改めて話し再認識を促している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭りや清掃等地域の行事に入居者と一緒に参加して交流を深めている。地域の保育園との交流やボランティアとの交流も活発で、運動会に参加したり、ハーモニカの演奏会も行なわれている。回覧版を一緒に持って行ったり、近所の人が畑で作った野菜を届けてくれるなど、地域の人 も理解を深め受け入れてくれている。今後はホームの行事を近隣に配布し、立ち寄ってもらえるようにしたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的について管理者、職員共に理解し、忙しい日々の業務の中で項目も多く大変だったが、全員で自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた。職員で話し合い「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」という理念をつくりあげ、実践に日々取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者家族、市高齢福祉課職員、地域保育園の家族、ホーム職員をメンバーとして3カ月に1回開催している。会議では入居者の日々の暮らし振りや行事などを報告している。メンバーからの意見はケアに活かすように努めている。地域保育園の家族との繋がりで園児との交流も生まれた。評価結果も会議で報告し、意見をもらい、改善していく予定である。今後、地域の方の参加も促していきたいと考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護担当者には運営推進委員会に参加してもらいアドバイスを戴いたり、ホームの空き情報を電話で報告し連携している。また介護相談員も年2回受け入るなど随時報告、相談して情報交換し、運営やサービス向上に協力を求めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日の暮らし振りを記録し、毎月の「さくら・ひまわり通信」で行事のお知らせと共に報告する。体調など健康面で変化がある時は随時家族に電話で連絡をとっている。来訪時には積極的に話しかけ、入居者の暮らし振りや健康状態を伝えるほか、介護計画についても説明している。通院受診に付き添う家族にはホームでの健康状態を伝え、受診の結果や薬の情報等を聞いて共有している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情や相談窓口を明示し、契約時に説明している。面会時には声かけし、運営推進会議にも参加してもらい、意見要望を聞いて運営に反映させようと努めている。話を聞き意見を言いやすい環境づくりをし信頼関係を築いていくことが大切と考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動もあるが、職員が辞めるのは入居者にとってやはり衝撃があり、最小限に押さえる努力をし、混乱が起きないように転動や退職は敢えて告げないようにしている。お茶とお菓子で話をし、日常の行動や身体面に注意し、さりげなくサポートしている。入居者も時が経つと忘れていき、ダメージには至っていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の情報は掲示して勤務時間の調整など積極的に支援している。ホームでは外部の講師による勉強会に多くの職員が参加できるので度々実施している。今年度は「緊急時対応について」や「接遇、応対、マナーについて」などを学んだ。外部研修については認知症介護実践者研修に1名参加したが、現実には申し込みをしても選考に漏れるなど出席する機会は少ない。職員は外部のグループホーム等と互いに交流し情報交換や、研修、勉強をしたいと望んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織や地域の同業者ネットワークに以前は加入していたが、今は入っていない。介護事業者連絡会には参加交流し、サービスの質の向上に繋げている。他のホームとも積極的に意見や経験を情報交換したり、交流を図りケアに活かし、互いに行事などを通し交流できればと考えている。		同業者と交流し、互いの経験や情報を交換するのはサービスの質を向上させていく上で大切である。他のホームとはお互いに行事などを通し交流を実現し、連携して質の向上に取り組んでいくことに期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はないが、入居前に本人、家族に何度も訪問してもらい、他の入居者と一緒に過ごしてもらい、雰囲気に馴れてもらっている。入居後も入居者本人の個性に対応した介護をし、家族にも協力してもらい、生活しながら徐々に馴染んでいけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者のできることをしてもらうことで主役の場をつくり、入居者には「人生の大先輩」として敬意を持って接し、料理や掃除の方法、季節の行事や行事食など生活全般にわたり教えてもらうなど一緒に悩み、考え、笑いを共感し、お互い助け合い支え合っていると感じている。入居者は職員の元気がない時など「頑張らないといかんよ」「ご苦労様」と気遣い励ましてくれ、職員の明日への活力になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居の際、好きなこと、嫌いなこと、できること、できないこと、入居までの生活歴や生活環境をアセスメントして、思いや意向の把握に努め、意向を尊重し希望に沿えるよう援助していく。また、担当制を取り入れて月1回のミーティングの中では各入居者にとって一番良い方法を皆で検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居時に家族からの情報（生活歴、病歴、家族の状況）、希望を聞き2～3カ月ホームでの生活を観察する。各入居者の担当職員は、他の職員にも聞きながら「できること、できないこと」を記入して計画を作成し、計画作成担当者に渡す。計画作成担当者は担当職員からの情報を確認し話し合いながら、介護計画を完成させる。本人や家族に説明し確認印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の更新は6カ月に1度行っている。モニタリング、ケアカンファレンスは月1回のミーティングの時にしている。入居者ごとの経過記録には、入居者の変化、状況が細かく記されており「できること、できないこと」の用紙にはケアポイントが記録されているが、随時の計画の見直しまでには至っていない。</p>		<p>モニタリングやケアカンファレンスを月1回行い、入居者の変化や状況を確認しケアに反映させていることから、介護計画の見直しにも結びつけられることを期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携加算を取っている。入居者の中には、訪問理美容を利用している方もいる。衣替えのため入居者が自宅に戻り、服を取りに帰る時の同行や入院時には、1週間に1回お見舞いに行き、病状に応じて医師と相談し、ホームに受け入れることができる時には、退院を早めるなど柔軟な支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホーム提携医療機関の説明を受け、入居者がかかりつけ医か提携医を選択している。提携医は月2回往診を行い、病状の変化があった場合は家族に連絡をしている。かかりつけ医の受診は家族が行い、ホームでの情報を口頭で知らせ、病院からの情報は処方箋をもらい情報提供表をホームに手渡し情報を共有している。緊急時はホームが病院へ連れて行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族に「重度化対応に関する指針」について説明し同意を取っている。看取りの経験はない。早期から家族に入居者の様子を知らせ説明している。入居者の状況変化に応じて段階的に家族、医師、看護師、職員で今後の方針を話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に「個人情報使用同意書」を説明し入居者、家族から同意書を取っている。職員の言動については管理者が「させました」ではなく「していただきました」など指導している。職員が入居者に依頼する際、優しく話していた。入居者の記録は鍵をかけて保管されている。記録も入居者が見えないように配慮して記入していた。職員は入社時に守秘義務を交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除、食事など1日の大まかな流れはあるが、一人ひとりのペースを尊重し、本人の望む過ごし方を支援している。散歩に出たり、飴やタバコを買いに行ったり、ゆっくり入浴したりしている。時間をつくってカラオケと一緒に付き合うこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は地域のつながりで2箇所の店を利用している。食事作りは担当制になっているが、入居者の体調に合わせて無理強いはしていない。献立は栄養士が立て、メニューに沿って入居者と職員が共に下ごしらえ(稲荷の皮にご飯詰める)味付け等をする。後片付けは動ける入居者が茶碗、お盆、テーブルを拭くなど個々のできる力を発揮できるように配慮している。月毎の誕生会には、割り子を取り全員で楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かし、入居者は14:30~17:00の間に1日4~5人入浴している。夏場はほとんどの人が入浴かシャワー浴になる。入浴を拒否される方には、トイレに行ったタイミングを見ながら入浴へ誘ったり、その人の特性を観察したり言葉かけなどを工夫している。浴室は外の景色が見えるので景色の話や歌を歌ったりしながら入浴を楽しめるように気配りしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、料理の手伝い、食器洗い、皿拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除機がけなど役割の場面づくりを工夫している。気晴らしにカラオケをホームで週2回行ない、年2回お店に行き歌うなど活力を引き出す楽しみごとを支援している。消極的な方にはその方の得意分野の話題にふれ、楽しめるように職員がうまく引き出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援はほとんど毎日、入居者の体調に合わせて長距離、近所、ホームの周り3段階に分けて行い、気分転換、ストレス発散や五感刺激を得られるように配慮している。ドライブで最近、リトルワールド、さくらの花見など入居者は喜んで参加している。買い物にも職員と共に出かけ、喫茶店にも立ち寄りなど入居者本位の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は玄関に鍵をかける弊害を理解しているが、ホームの周囲には用水や山、公園があり、一人で山に入られた方がいるため、家族に相談し、家族は玄関に鍵をかけることを了解している。入居者の帰宅願望を感じた場合は、入居者を送り出した後、分からないように後ろから職員が付いて行き、偶然に遭ったようにして安定した気持ちになるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消火訓練計画に沿って日中の火災を想定した、年2回の避難訓練を実施している。通報の仕方や消火器の点検は年2回業者が行っている。地域の協力体制はとれている。</p>		<p>夜間の火災や地震等の自然災害を想定した避難訓練を行い、備蓄品も2日分ぐらい用意し災害に備えることを期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員の栄養士がバランスを考慮した献立を立てている。カロリーは1,400kcalに設定されている。食欲がわくように目で見て「美味しそうね」と声かけをしている。入居者によっては細かくほぐすなどして食べやすいように工夫している。入居者が嫌いなものは、職員が話し方を工夫し、食べてもらえるよう努力している。水分補給は1日6回、最低1,000ccは摂取している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には長椅子があり、座って靴を履いたり脱いだりできるように靴箱をうまく工夫している。廊下は、肘が付くように四角の手すりが付いている。途中には入居者と園児の交流写真や入居者が書いた書道を掲示している。テラス、ベランダは広々として、ベンチからは庭の植物、樹木、実がなるキンカン、みかん、柿などが見える。広々とした居間にはテレビを見るコーナーや2台のテーブル、調理する大きなカウンター、ゆったりできる畳の間があり居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、馴染みの家具、椅子、ベッド、寝具、時計、家族の写真などがあり、自作品、運動会の表彰状など掲示され、入居者の居心地のよさに配慮されている。居室の掃除は本人が行う方もいれば、職員が一緒する方もいる。床は板の間で、ベッドを置いたりカーペットを敷いたり、畳にしたり自由である。居室からも外が見え木々、花が見られ落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。